

## A-3 栽培地を異にする大豆のリン含量

農林省食糧研 ○平 春枝  
平 宏和

1. 前報において、栽培地の異なる大豆各30品種の一般成分を定量し、各地域における生育特性、栽培環境および一株粒重・千粒重などの各成分の変動に与える要因を検討したが、今回は無機成分中リンにつき上記諸条件を検討したので報告する。

2. 試料は石岡・塩尻・熊本の各試験圃場で栽培した大豆各同一30品種を用い、それぞれ粉碎後常法により灰化し、モリブデン青比色法（中村氏変法）によりリンを定量した。

3. 栽培地を異にした大豆のリン含量および灰分中のリンの比率は、熊本産大豆において特に高いことが認められた。また、リン含量の地域的変動は、熊本産大豆において小さく、塩尻産大豆において大きい傾向が認められた。

リン含量の変動に及ぼす生育特性、環境条件などとの相関は、灰分において認められたと同様な要因、すなわち、開花迄の日数・積算平均気温・積算日照時間などとの間に負の相関が認められたほか、開花迄、登熟中、成熟迄の各積算降水量との間にも正の相関が認められた。また、一株粒重との間にも負の相関が認められた。

一般成分含量とリン含量との相関は、タンパク質・灰分との間に正の相関が、炭水化物との間に負の相関が認められた。